



街角特派員は、読者の皆さんの代表です。毎年公募で決定。一人が年2回ずつ、「広報おうら」にレポートを掲載します。町づくりの方向への意見や気になる事業の進捗状況、または自分が皆さんにアピールしたいことなど、突撃取材と歯に衣着せぬ直言で、皆さんの「そこが知りたい」に答えます。

MACHIKADO 街角特派員レポート **REPORT** No.188

蛇口のむこうの安全



街角特派員 根本康男
(十三坊塚・6区)

蛇口をひねれば、いつでもどこでも水は出ます。ふだん何気なく使っているのが水道水。邑楽町では、中野浄水場と第三浄水場でこの水道水がつくられています。今回の街角特派員レポートでは、井戸や川の水を「安心安全」なきれいな飲料水にして、家庭や学校などの蛇口へと運ぶ上水道の役割にスポットを当ててみようと思います。関係者のインタビューや、どのように邑楽町の水道水ができていいのか、その過程も取り上げ、「蛇口のむこうの安全」についてレポートします。



け響に恵まれ、よく釣りへ出掛けました。今も水にはこだわりを持ち、1〜2か月に一度は山奥の流域に水くみに出掛けます。往復100キロメートルの「高い水こ」と皮肉られたつ。ですから、水へのこだわりを持つ私は水道水を沸騰させてから、お茶などで飲むようにしています。

今回、テーマを水道水にしたのも、岩清水で育った環境と水へのこだわりから、自分の暮らす町の水道水に関心があったからです。

それと、福島第一原子力発電所の事故による放射性物質の水中含有量も心配だったからです。

水にはこだわりを持ち、山奥の流域に水くみに出掛けています

まずは、町の水道水の基本知識

町の水道水基本データ
(平成23年3月31日現在)
水道が開始された日
昭和34年4月1日
水道水利用人口
27,377人
給水率 98.61%
水道管の長さ 約170km

1日平均の水の量 10,056 ml
小学校のプール約31杯分

※1mlは、1,000リットル。牛乳パック1,000本分



邑楽町の水道水は、中野浄水場と第三浄水場で井戸の水をきれいにしたものと、利根川の水を浄水したものを家庭や学校、企業へと配水している

私の実家は、世界のフクシマと違ってしまつた福島県の白河市です。おぎやと生まれてから57年になりますが、実家は現在も岩清水をポンプで引いて煮炊きなどに使用しています。今まで私の記憶にこの岩清水が洒れたということはありません。

今回の大震災では、実家も震度6弱の揺れに見舞われましたが、幸い家屋などに被害を受けることはありませんでした。しかし、岩清水は濁りが一週間ほど続いたそうです。

実家と湧き水の距離は約30メートル。近かつたせいか、ポンプで水を引くということもせず、中学生ごろまで水くみをさせられて、多感な年代!?を恥ずかしい思いで過ごしたことが、今では懐かしく思い出されます。

私の実家は岩清水が今も流れ続けている

身近で意外と知らない水のこと

街角特派員として
邑楽町の水道水を
取り上げたいきっかけ

岩清水…岩の間から湧き出るきれいな水

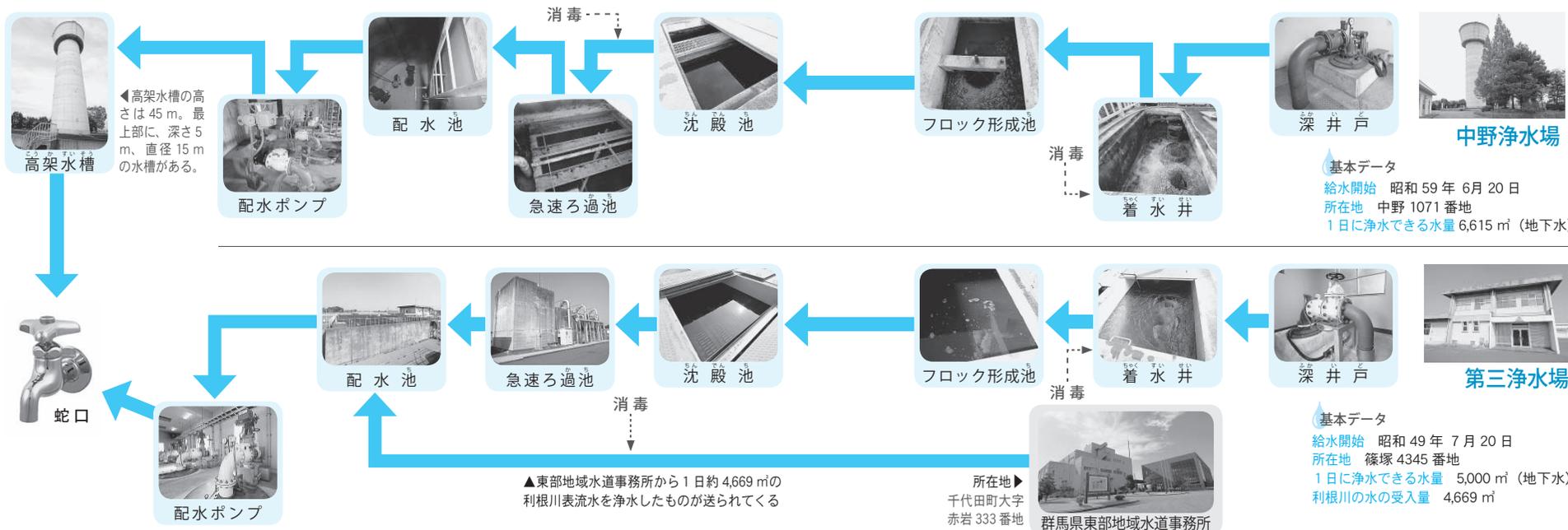


実家では、今なおきれいな岩清水が湧き出ています

水にはこだわりを持っています

群馬県人となつて30年、邑楽町に来て23年経過しました。当地に来る前の勤務地は、静岡県の島田市という、髪型の島田髷発祥の地でした。8年ほどおりました。近くには「越すに越されぬ大井川」と「海」があるという、自然の生





蛇口からさかのぼる 水道水のできるまで

安心して安全な
町の水道水を
つくるために



町の水道水はどうやって
つくられているの？

中野浄水場

基本データ
 給水開始 昭和 59 年 6 月 20 日
 所在地 中野 1071 番地
 1 日に浄水できる水量 6,615 m³ (地下水)

第三浄水場

基本データ
 給水開始 昭和 49 年 7 月 20 日
 所在地 篠塚 4345 番地
 1 日に浄水できる水量 5,000 m³ (地下水)
 利根川の水の受入量 4,669 m³

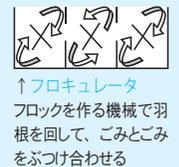
高架水槽 配水ポンプで高架水槽へ水がためられる。この高さから水を落とす勢いで配水する

配水ポンプ 中野浄水場は、4 台の配水ポンプを使って高架水槽へと水をあげている。第三浄水場は、6 台の配水ポンプで、家庭や学校、企業へと水を送っている

配水池 飲むための池

急速ろ過池 砂の層でろ過して、さらにきれいな水にして配水池へと送る。このろ過池を通った水を浄水 (水道水) といって、初めて飲むことのできる水となる

沈殿池 フロック形成池で作ったフロックを、沈殿池で下へと沈める。そして、上澄みのきれいな水だけを次のろ過池へと送る



フロック形成池 水に含まれる余分なごみを固めたものをフロックと呼ぶ。フロック形成池では、ごみとごみをぶつけ合わせて、なるべく大きなフロックを作っている

着水井 深井戸から、くみ上げた水を 1 か所に集める。この池に集めた水を、この後きれいにしていく

深井戸 6 本の深井戸から、ポンプで 1 日約 6,800 m³ の水をくみ上げている。これは、小学校のプール 21 杯分になる

中野浄水場を見学した小学生の視点
 Interview 高島小学校の社会科見学

高島小学校 4 年 赤坂 桜さん

飲み水になるまでの道のりが分かった。おどろきの発見もあった。

「どうやって自分の家に水がくるのかなと思ひながら、中野浄水場を見学しました。」

ような浮遊物が見受けられました。これは含有というより、配管などに付着した物質が、はがれて出てきたのかと推察されます。くみ上げられた水の処理は、中野浄水場とほぼ同じですが、第三浄水場には利根川を水源とした、県東部地域水道事務所から受け入れる「県水」が加わります。受け入れた県水は、もう一度水質データを基に薬品を注入して、消毒しているとの説明を受け、一度処理しているのだから、そんな手間は掛りなくてもいいんじゃないの、との意見が聞こえてきそうですが、人々の口に入り健康を左右する「水の安全」は、こうして守られているのだと、改めて感じさせられました。

Interview 家庭で使う水道水について、お話を伺いました

佐々木 千恵さん (天王元宿・5 区)

「水道水は毎日気にせず使っています。水への関心も特にありませんが、放射線物質の検査が行われているの、今は気になる部分もあります。大丈夫とは思っているのですが…。何しろ毎日使うものですからね」

▼町では、水道水の放射性物質の測定結果についてホームページで公表しています。また、役場庁舎内に測定結果を掲示しています。

▼ホームページ <http://www.town.orai.gunma.jp>

説明を熱心に聴く児童たち

中野浄水場を取材して

井戸からくみ上げられた原水は、想像したものよりきれいな透明度を湛えていました。湧き水や、一般家庭で設置したポンプから排出される水の記憶しかなかったの、ここ関東平野の一区区である邑楽町の、私たちの足元深く 200メートルの地下から流れ来た水に「ようこそ」と声を掛けたいほどでした。

表流水ではないので、そのままでも飲めるかと思いましたが、雑菌以外に水に溶け込んでいた鉄やマンガンなど、飲物の除去処理が必要との説明を受けました。知人や同僚など数人に対して、「邑楽町の水道水はどうでしょうか」と質問してみたところ、20 歳から

役場水道課職員のかたからの説明で、町の水道水ができるまでの流れを知った

60 歳代の人たちからは、「気にしないで飲めますよ」との返答が返ってきました。

蛇口から朝一番最初に出す水道水は、塩素（カルキ）分が沈殿して、においが強く、味も「まずいよ」といった答えを予想していた自分にとっては意外であり、原水がうまく処理されているのだと感心しました。

第三浄水場を取材して

秋晴れとなった午前。二番目の取材先となる第三浄水場の見学をする機会をいただきました。第三浄水場は、中野浄水場と比較して、高架水槽がない分、外観はすっきりとした印象を受け、道路沿いではありますが、「何の施設だろう」と振り返る町民は、あまりいないだろうと思われました。

原水は中野浄水場と同じように、透明度はあるものの、さびの

水道水ができるまでの過程を取材してみよう

浄水場はコンピューターで制御されていて、機械を自動で動かしたり、止めたりできる



東部地域水道事務所の1日の最大供給能力は、40,750 ml。写真は大量の利根川の原水を処理する原水調整池



機会があれば、もっと上流にさかのぼって、利根川の源流域にも足を延ばしてみたいです。思うだけですが、改めて実感しました。

供給される水の量は 館林市に次ぐ2番目

この施設では、粉末活性炭吸着設備を導入、吸着作用を利用して、利根川原水の脱臭などの浄水処理を行っています。また、処理工程で発生した水分が残っている最終汚泥を機械で脱水するほか、天日乾燥床という所に集め、自然乾燥でも脱水を行っています。

「町民の皆さんの口に入る水道水 安全には、こだわっています」

今日も町の水を守る 役場水道課 Interview



町の水道事情を説明してくれた 役場水道課 蟹和 薫さん

①地震対策▼送水ラインの更新や、稼働年数の長い浄水場の耐震対策の検討を予定している
②水質の維持▼送水した浄水が滞留しないようなルートでの調査・対策を検討している
③利根川の水の供給が停止してしまったら▼自己水で賄える。もちろん節水が前提のこと
④水質検査▼法令で決まっている

取材先▶役場水道課



町の水道水についての 疑問に答えてもらう

最後の取材では、役場水道課の職員のかたに町の水道事情と、今後の課題などを伺いました。

まず、町の水道利用量について質問してみたところ、総量で減少傾向にあるとの説明でした。それは各利用者の節水によるものか?と思いましたが、さに非ず、大口利用者(企業)の撤退による減少とのことでした。

次に、町水道の今後の方針についても質問をしました。内容を簡単に、次のようにまとめてみました。



プールでは水中ウオーキング教室の真っ最中。水は健康管理にも役立っている

水道水の安全性や気になる点を聞いてみた

スポーツ施設と言えば、ほとんど「プール」が併設されており、まさに「水を活用」した健康の維持または増進に取り組んでいる所です。

私たちが取材に訪れたデイズスポーツプラザでは、プールでウオーキングの真っ最中でした。支配人の神山さんに、水の管理に注意していることなどや水道水について、お話を伺ってみました。

水を使用する 企業に取材 Interview



支配人・健康運動指導士 神山 智洋さん

取材先▶デイズスポーツプラザ

「何よりお客様の安心安全を考えて プールの水には気をつけています」

プールの水の管理はどのようにしているのでしょうか

当スポーツプラザでは、プールや入浴施設、シャワーは、水を頻りに使用しています。何よりお客様に安心してご利用いただくために、使用する水にはとても配慮し、衛生面を徹底しています。

透明度には特に気を配り、糸くずや不純物などをフィルターで取り除くとともに、砂ろ過方式も採用して、常に水を循環させて使用しています。

水はスポーツ施設で、どんな役割を果たしていますか

水は飲むだけではなく、入ることによって健康増進にもつながります。例えば、水中ウオーキングは体に浮力を与えますので、ひざや腰に負担がかからず、無理なく運動できます。また、体の抵抗力の向上にもつながるので、ぜん息の予防や風邪を引きにくくする体づくりにも最適です。

水は飲むだけではなく、健康管理などにも寄与するものだと考えます。

「飲む」水道水は当たり前のように安心安全でなくてはなりません。体が皮膚が水に「触れる」安全も大切ということ。体の内側と外側から安心安全な水なら健康によいと思います。

水を使用している 企業を取材してみた

私たちが取材に訪れた時、プールでは、利用者のかたたちが水中ウオーキングの真っ最中でした。そのプールからは、水があふれ出ている、常に水を循環しているというお話しでした。

その光景を見て思ったことは、「飲む」水道水は当たり前のように安心安全でなくてはなりません。体が皮膚が水に「触れる」安全も大切ということ。体の内側と外側から安心安全な水なら健康によいと思います。

とかくプールと聞くと、大量の水を消費するイメージがあります。水をためるために、確かに相応の水量は必要ですが、当施設では水を常に循環させて、ろ過やそのほかの方法も採用し、節水に結びつけています。

水とは体の中にも、外に対しても安心安全であることが第一ということ、取材を通して再認識させられた一日でした。お忙しい中、取材にご協力いただきありがとうございます。

⑤放射性物質▼放射性セシウム・ヨウ素は検出されていない。検査結果は、随時庁舎内および町ホームページなどで掲載中

邑楽町の水道水から 見えてきたもの



厳しい水質検査が行われているからこそ、安心して使える水道水

今や水は、お金で買って飲む時代。そのうち「水はどこからきまつか」と子どもたちに質問すると、「自動販売機から」という答えが返ってくるような時代は、すぐそこまで来ているようです。

水道水の消費量減少が事業所撤退によると、町の経済の低下にもつながる問題、やはり事業所が町内に誕生し、「一人雇用の創出↓消費物の生産」といった流れが、活性化につながる近道だと考えます。それぞれの立場の人たちが、その領分をいかに発揮して、地域の活性化に結びつけていきたいと思います。

街角特派員レポート 取材を終えて Report

取材を通して、見るほど聞くほどに「水」には奥が深いものがあり、そのつど勉強になった。

「蛇口のむこうの安全」一完 街角特派員 根本康男



取材を終えて町民の皆さんに報告します

街角特派員レポートで「水」というテーマを設定してから、中野浄水場、第三浄水場、県東部地域水道事務所などを取材してきました。見ると聞くほどに「水」は、奥が深いものがあり、そのつど勉強になりました。たかが水、されど水の「安心安全」は、確かにその中に込められているのだと思いました。

皆さんの今一番の関心事、放射性セシウム・ヨウ素も水道水からは不検出との検査結果でしたので、これで安心してレポートの報告ができます。水道水のカルキ臭などについては、「気になる」個人差はあると思いますが、少しでも和らげられて、目覚めのおいしい一杯の水が飲めるよう、水道課の皆さんが願っています。

最後になりましたが、役場水道課、県東部地域水道事務所の職員、千代田町にある県企業局の運営する東部地域水道事務所を訪ねました。太田・館林・板倉・明和・千代田・大泉・邑楽の7市町へ利根川の水を浄水して、供給する役目を担っている同事務所。

河川を汚さないように日ごろから 心掛けたいと、改めて実感。

取材先▶群馬県東部地域水道事務所



群馬県東部地域水道事務所 内山 倫秀さん 小池 裕さん

利根川の水を供給する 東部地域水道事務所

取材を兼ねた施設見学の結びに、千代田町にある県企業局の運営する東部地域水道事務所を訪ねました。太田・館林・板倉・明和・千代田・大泉・邑楽の7市町へ利根川の水を浄水して、供給する役目を担っている同事務所。

私がた田園地帯の中に、私たちが訪ねたその施設は、佇んでいました。稼働は平成9年10月からということ、利根川の取水から各市町への供給までの行程の説明を受けながら見学しました。

施設の屋上からは、初冬の装いをまとった上州の山々を始め、360度の視界がひらけました。南に目を向けると、利根川の取水口が望めました。今まで取材してきた2か所の浄水場と処理行程は、ほとんど同じでしたが、やはりその規模は圧倒的。

利根川の水を供給する 企業に取材 Interview